

『民主主義と教育』 第12回

デューイの名著『民主主義と教育』の出版から今年でちょうど百年です。デューイは、こう書きました。

「民主主義は単なる政治形態でなく、それ以上のものである。……共同生活の様式、連帯的な共同経験の様式なのである。人々がある一つの関心を共有すれば、各人は自分自身の行動を他の人々の行動に関係づけて考えなければならぬし、また自分自身の行動に目標や方向を与えるために他人の行動を熟考しなければならぬ」。つまりデューイの民主主義は、「生き物としての人類（人間）のあり方」（栗田修）なのです。

そしてそういう人々が増えていくことは、「自分たちの活動の完全な意味を認識するのを妨げていた階級的、民族的・国土的障壁を打ち壊すことと同じ」と考えました。

デューイと照らせば、いろいろな〈かべ〉をこえて、〈つながる〉ことを重視している生活教育は、



その全体が民主主義なのだと言えるし、民主主義とは、生活教育の一つひとつの実践だと言つてよいでしょう。

日本の子どもたちは、大幅な人口減少と、イノベーションによつて「今は存在していない職業」に就いていくという二つの大きな問題に直面しています。『民主主義と教育』から百年後に生きている私たちは、〈人間のあり方〉として、これらの問題にどういう具体的解決策を考えればよいのでしょうか。ものすごいスピードで具体化されてきている教育再生実行会議提言をにらみながら、真剣に考える時が来ていると思います。

（研究部・加藤聡一）

参考文献

- ① デューイ（松野安男訳）『民主主義と教育（上）』岩波文庫 岩波書店、一九七五年（原書一九一六年、一四三ページ）。
- ② 「教育再生実行会議提言」 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/koukuseisai/teigen.html> 特「第四次提言（人口減少）」、第六次提言（職業）。